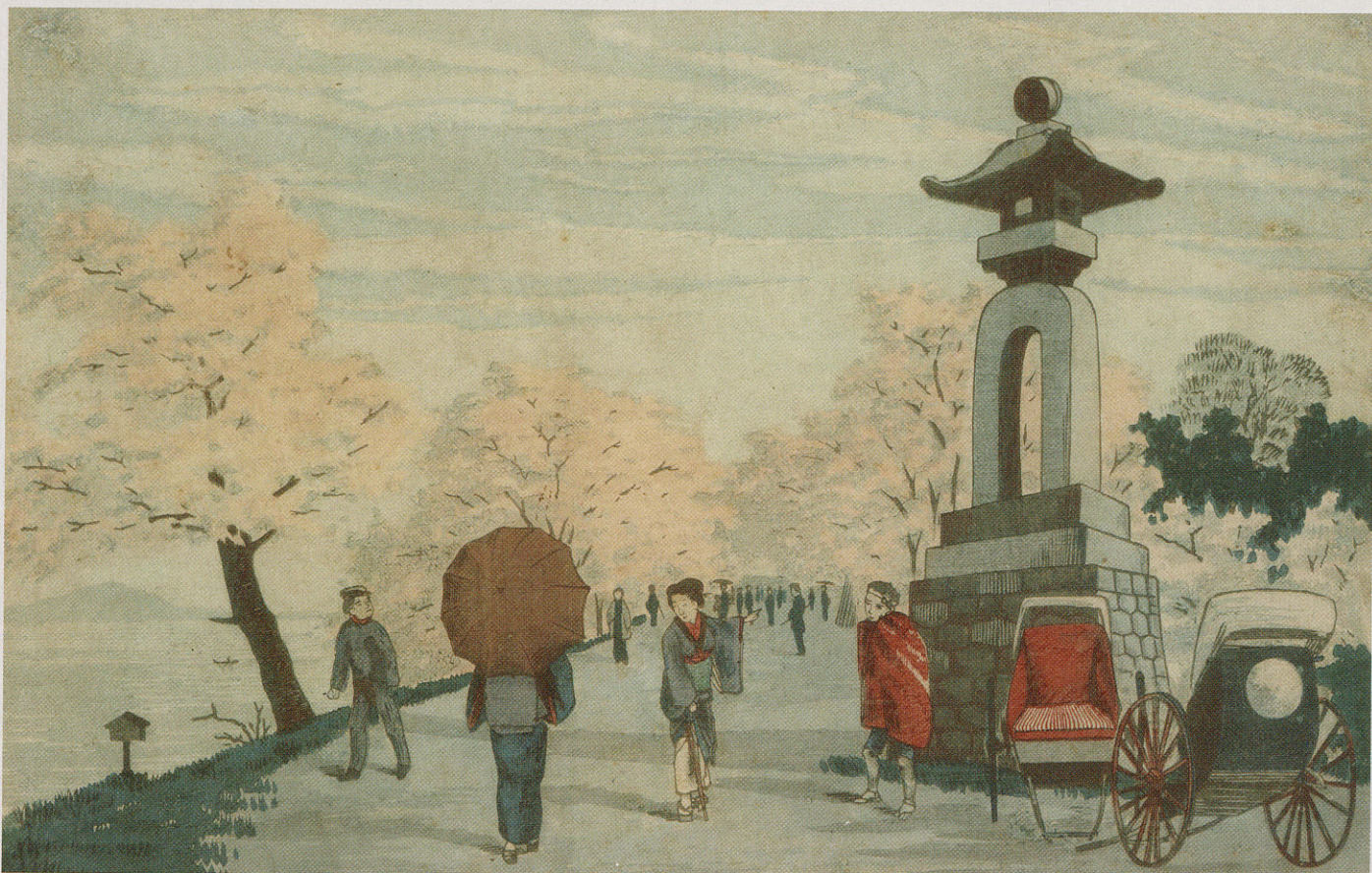


MEIJI MURA

明治村だより Vol.67 2012 Spring

CONTENTS

学習院長 官舎 修理竣工記念特別展	
1887 ベルリンの出会い 学習院長乃木希典と森鷗外 出品目録	2
明治村ニュース	7
春の催しもの	8
A La Meiji-mura	10



明治村文化講座「明治塾」

塾生
募集中

明治村をより理解していただくために、建築のみならず明治時代に関する様々な分野について、各分野で活躍中の研究者に講演いただきます。

応募資格／明治時代の建築や文化等に興味のある方。

原則5回すべて受講できる方。

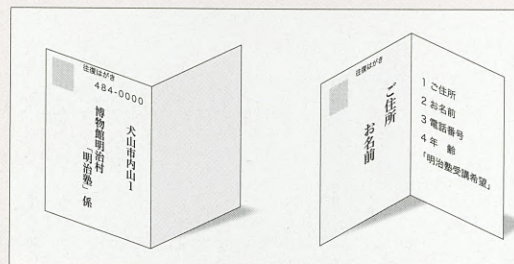
定員／50名（応募多数の場合は抽選）

参加費／10,000円（5回分、入材料は別途）

申込方法／受講ご希望の方は往復はがきで、下図のようにご住所・お名前・電話番号・年齢・「明治塾受講希望」とご記入の上、下記宛お申込ください。

（平成24年5月31日消印有効）

送付先／〒484-0000 犬山市内山1
博物館明治村「明治塾」係



講演時間はいずれも13時から行います。

スケジュール・講師プロフィール（敬称略）

第1回 6月23日(土)
馬淵 明子（まぶち あきこ）

神奈川県出身。
日本女子大学教授。
東京大学教養学科卒業。東京大学大学院、7期第四大学大学院博士課程で美術史を学ぶ。東京大学助手、国立西洋美術館主任研究官、青山学院女子短期大学助教授を経て現職。
受賞：サントリー学芸賞、ジャポニスム学会賞
主な著書：『美のヤススー・テオフィール・トレと19世紀美術批評』（スカイドア 1992）『ジャポニスム・幻想の日本』（フユエック 1997）

第2回 7月21日(土)
鈴木 淳（すずき じゅん）

東京都出身。
東京大学文学部准教授。
東京大学文学部卒業。東京大学大学院、東京大学社会科学研究所助手を経て現職。
主な著書：『明治の機械工業 その生成と展開』（ミネルヴァ書房1996）、『関東大震災 消防・医療・ボランティアから検証する』（筑摩書房 2004）、『科学技術政策』（日本史リブレット）（山川出版社 2010）

コーディネーター

鈴木 博之（すずき ひろゆき）
（明治村館長）

東京都出身。
青山学院大学教授、東京大学名誉教授。東京大学工学部講師、助教授を経て、教授。ハーヴァード大学客員教授。東京大学名誉教授。
主な著書：『ジェントルマンの文化』、『夢のすむ家』、『三井本館』、『東京の地盤』、『建築家たちのヴィクトリア朝』

スケジュール・講師プロフィール（敬称略）

第3回 9月29日(土)
増田 彰久（ますだ あきひさ）

東京都出身。
写真家。
日本大学芸術学部写真学科を卒業。大成建設を定年で退職後、増田彰久写真事務所を主宰。40数年にわたり明治・大正・昭和戦前の近代建築や近代化遺産を撮り続ける。日本写真家協会、日本写真協会、日本旅行作家協会会員。
受賞：第33回日本写真協会賞年度賞、第9回伊奈信男賞、2006年日本建築学会文化賞など
主な著書：『棟梁たちの西洋館』（中央公論新社 2004）『イカロスの近代化遺産』（小学館 2006）他

第4回 10月27日(土)
堀 勇良（ほり たけよし）

東京都出身。
建築史家。
京都大学工学部卒業。東京大学生産技術研究所、横浜開港資料館、文化庁主任文化財調査官を経て、現在に至る。
受賞：日本建築学会賞受賞
主な著書：『日本の美術 No.447 外国人建築家の系譜』（至文堂 2003）、『日本の様式建築』（新建築社 1977 共著）、『建築探偵術入門』（文春文庫 1986 共著）

第5回 11月17日(土)
川本 三郎（かわもと さぶろう）

東京都出身。
文芸評論家。立教大学特任教授。
東京大学法学部卒業後、朝日新聞社入社。退社後、文筆家として活動を開始。
受賞：サントリー学芸賞、読売文学賞、評論・伝記賞、毎日出版文化賞、桑原武夫学芸賞
主な著書：『大正幻影』（新潮社 1990）、『マイ・バック・ページ ある60年代の物語』（河出書房新社 1988）、『衛風と東京「前編」私註』（都市出版 1998）、『衛風好日』（岩波書店 2002）、『林芙美子の昭和』（新書館 2003）

表紙について



「隅田堤花見図」 小林清親 画
製作された時期は詳らかにはなっていないが、明治9年から14年の間の凡そ5年間に描かれたのではないかと考えられる。
この絵は「光線画」に特徴的な「夕方から夜」「雨降り」を画題とはしていないが、春爛漫の花見日和の空気感を巧みに表現しているといえる。



●小林清親（こばやし きよちか）

弘化4（1847）年～大正4（1915）年
「最後の浮世絵師」「明治の広重」などとも称される。
江戸生まれ。文久2（1862）年、父の死に伴い、家督を相続し、旗本として幕府に仕える。
清親の作品が世に知られるようになったのは、明治9年に「光線画」として、いわゆる「名所」を描いた作品群が出版されてからである。しかし「光線画」は明治14年に火災を描いた作品が最後で、以降、風刺画や歴史画を発表していった。
一世を風靡した清親の「光線画」の表現方法は、師事した写真家岡田豊枝、河鍋晩斎、柴田是真、ワグマンなどから、学び取っていたのではないかと考えられていたが、いずれも確証がなく、独学ではないかという考えが、近年は大勢を占めている。
博物館明治村では、小林清親の作品130点以上を収蔵し、折に触れ、展示をおこなっている。

平成24年3月18日発行

「明治村だより」第67号（平成24年 春）

発行 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
電話（0568）67-0314
<http://www.meijimura.com>

製作 株式会社 DNP 中部

『明治村だより』第68号発行のお知らせ

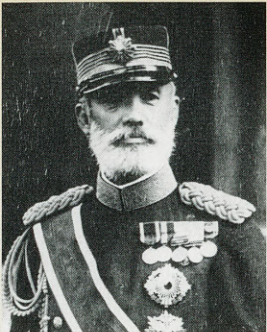
発行時期 平成24年7月中旬（予定）
申込方法 「明治村だより」第68号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

1887 ベルリンの出会い

学習院長 乃木希典と森鷗外



森鷗外



乃木希典

川上、乃木両少将の家に会す。(明治二十年六月十二日(日曜)ベルリン)石氏^{※2}を訪ふ。乃木少将に遭ふ。(明治二十年九月四日(ベルリン)乃木少将の「テゲット」宿舎に在るを

聞く。往いて訪ふ。逢はず」(明治二十年十月六日ウィーン)
公使宴を張りて同邦人を招く。余もまた与る。乃木少将の祝辞囁々解すべからず。石君雄弁坐人を驚かす。(明治二十年十二月二日(ベルリン))
鷗外は、石黒忠恵の通訳として同行した、明治二十年九月ドイツの有名な保養地カールスルーエで開催された第四回万国赤十字大会終了後、ウィーンで開催中の万国衛生会議に石黒とともに立ち寄り、偶然乃木希典がウィーンへ来ていることを知り、訪ねたようです。
残念ながら今回は出品されていませんが、森鷗外(林太郎)の上司であり、乃木希典の陸軍の同僚でもある石黒忠恵が、滞欧中に記した『日乗』および『書簡』は国立国会図書館や慶応大学信濃町メディアセンターに遺されており、森鷗外や乃木希典の日記からは知れない彼らの日常が克明に記されており大変興味深い資料です。
二人が出会った当時のベルリンは、ドイツ帝国の首都として、国会議事堂建築中の写真^{※3}から読み取れるように、活気に満ち溢れていたようです。三十を超える国と四つの自由都市がそれぞれに存在していたドイツですが、熱血宰相と呼ばれたビスマルクのもと、オーストリアとの戦争でプロシヤが勝利を果たし、まずドイツ北部・北ドイツ連邦が発足し、ついで一八七〇年に始まった普仏戦争でもフランスに勝利したのち「ドイツ帝国」が成立し、一躍列強の一員としての並び称せられるようになりました。
陸軍軍医として留学していた鷗外は衛生学などを学びつつも、絵画や音楽など文化面も幅広く吸収し、一方、乃木希典はこのドイツ留学により、それまでの放蕩三昧に近い行動を改め、ドイツの国王と臣民との関係を目の当たりにして、就寝時にさえ軍服を脱がないほどとなり、最後までこれを貫き徹しました。

この展示を通して、一八八七年、遠い異国の地ベルリンで、乃木希典と森鷗外のふたりが初めて出会い、近代日本の担い手としてそれぞれの道―陸軍大将・学習院長、陸軍軍医総監、作家―の牽引者となりえた、そんな様子を垣間見ていただくことが出来れば幸いです。

乃木希典が学習院長に就任したのはこれまでに紹介させていただいたように明治四十年一月のことでした。これは日露戦争で二人の子を亡くした乃木希典を明治天皇が憐れんで、学習院の生徒を自分の子と認めて大切に育てるようにとの計らいでした。
明治三十年代後半から着々となされた学習院のキャンパスの移転が完了したのは乃木院長在任中の明治四十二年夏のことです。その配置図をみると^{※4}校舎と寄宿舎が区分けされた、当時としては斬新なキャンパスプランだったことがわかります。キャンパス移転という大事業を完成させた、その労をねぎらって明治天皇から学習院長の乃木へ銀製の大きな鉢(3124)が贈られています。学習院アーカイブズに遺されている『式事録』を紐解くと、同年七月十四日に学習院の移転事業が終了したことを記念し、明治天皇の行幸を仰いでいます。天皇は朝十時に皇居をご出発され、校舎や学生の様子など、三時間余りという長時間に渡って学習院をつぶさに見学され、院長として乃木希典が行幸中の案内係を務めていたと記録されています。

乃木希典と森鷗外のベルリン

乃木希典と学習院

特別展出品目録

会期／平成24年1月21日～6月24日
会場／三重県庁舎1階特別展示室

番号	資料名	備考	所蔵
1-01	写真 森林太郎とともに ①		長府 乃木神社
1-02	切手原画 森鷗外		日本郵政株式会社郵政資料館
1-03	自紀材料 (複製)		博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-04	国民之友 (於母影) 所収	明治22年8月	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-05	国民之友 (「舞姫」所収)	明治23年4月	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-06	しがらみ草紙 (「うたかたの記」所収)		博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-07	新著百種 (「文」かひ) 所収		博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-08	めさまし草 (複製)	明治29年	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-09	藝文	明治35年6月	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-10	萬年艸	明治35年10月	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-11	スバル (複製)	明治42年1月	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-12	三田文字 (「棧橋」所収)	明治43年	博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-13	舞姫草稿 (複製)		博物館明治村 成瀬正勝文庫
1-14	バッグ	長府 乃木神社	成瀬正勝文庫
1-15	ドイツ新聞綴り Illustrirte Zeitung	1888年	長府 乃木神社
1-16	切手原画 乃木希典		日本郵政株式会社郵政資料館
1-17	切手 2銭 3銭		長府 乃木神社
1-18	乃木希典のドイツ留学報告書草稿		長府 乃木神社
1-19	写真 ベルリン滞在中の乃木希典 ①		長府 乃木神社
1-20	乃木希典日記 ①		長府 乃木神社
1-21	写真 ドイツ将校とともに ①		長府 乃木神社
1-22	写真 ドレスアンでの森林太郎 (複製)		文京区
1-23	写真 ミュンヘンでの森林太郎 (複製)		文京区
1-24	乃木希典書簡 森鷗外宛		文京区
1-25	四回万国赤十字会議明治二十年同二十一年第四回万国赤十字	明治20～21年	博物館明治村 日赤文庫
1-26	1887年9月独乙カルスルーエ	1888年	博物館明治村 日赤文庫
1-27	VERTÉ INTERNATIONALE CONFÉRENZ DER VEREINE VOM ROTHEN KREUZ (邦題 第4回赤十字国際会議の議事録)		博物館明治村 日赤文庫

番号	資料名	備考	所蔵
1-28	プレスレット		長府 乃木神社
1-29	写真 ドイツ留学中の乃木少将 ④		下関市立長府博物館
1-30	乃木希典 ドイツ留学中のレポート ⑤		下関市立長府博物館
2-01	乃木希典遺愛品 釜 (ねじ梅)		学習院アーカイブズ
2-02	乃木希典遺愛品 ヤカン		学習院アーカイブズ
2-03	乃木希典遺愛品 鉄瓶		学習院アーカイブズ
2-04	乃木希典遺愛品 柄杓		学習院アーカイブズ
2-05	乃木希典遺愛品 茶器一式		学習院アーカイブズ
2-06	乃木希典遺愛品 茶器		学習院アーカイブズ
2-07	乃木希典遺愛品 茶碗 ① ③		下関市立長府博物館
2-08	乃木希典遺愛品 箱膳 ① ③		下関市立長府博物館
2-09	乃木希典遺愛品 一輪挿し		長府 乃木神社
2-10	写真 京都伏見で桂弥一とともに ①		下関市立長府博物館
2-11	写真 乃木希典家族 ①	明治29年頃	長府 乃木神社
2-12	木札		長府 乃木神社
2-13	乃木希典初端午祝屏風 ① ③		伝狩野芳崖画
2-14	祭文 (複製)		長府 乃木神社
2-15	乃木希典書簡 松吉大兄宛		長府 乃木神社
2-16	立像	渡辺長男作	長府 乃木神社
2-17	乃木希典書 辞世下書		下関市立長府博物館
2-18	乃木希典書 元旦の試書 ④	明治16年	下関市立長府博物館
2-19	乃木希典書 善以為宝 ②	明治30年	下関市立長府博物館
2-20	乃木希典書 歌書 ⑤	明治35年	下関市立長府博物館
2-21	乃木希典書 桂弥一宛 ②	明治45年	下関市立長府博物館
2-22	乃木希典書 辞世下書 神あがり ⑤	明治45年	下関市立長府博物館
2-23	乃木希典書簡 桂弥一宛 ④	明治34年	下関市立長府博物館
2-24	外国から届いた戦勝を祝う葉書 ④	明治38年	下関市立長府博物館

※資料名の●数字は展示期間。
①=1月21日～2月19日 ②=2月21日～3月25日 ③=3月26日～4月22日 ④=4月23日～5月27日 ⑤=5月28日～6月24日
番号のないものは全期間展示します。(予告なく展示期間が変更になる場合があります。)

説明末尾の(番号)は3・6ページの展示目録番号です。

※右下●の数字は展示期間。(●=1月21日～2月19日 ●=2月21日～3月25日 ●=3月26日～4月22日 ●=4月23日～5月27日 ●=5月28日～6月24日)
番号のないものは全期間展示します。(予告なく展示期間が変更になる場合があります。)

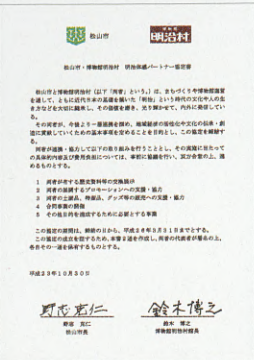
松山市と「明治体感パートナーシップ協定」を締結



平成23年10月30日 博物館明治村内の三重県庁舎知事室で行われた調印式



特別展「明治村と子規・真之・好古」のオープニングセレモニー



協定書



ポーツマス条約調印の机

去る平成二十三年十月三十日、博物館明治村内三重県庁舎知事室において、松山市の野志克仁市長と博物館明治村の鈴木博之館長が「明治体感パートナーシップ協定」に調印をしました。博物館明治村ではともに「スベシヤルドラマ『坂の上の雲』」のロケ地となった松山市と交流を深め、昨年度と本年度の二度にわたり、松山市立子規記念博物館の所蔵品を紹介する展覧会を開催いたしました。

さらに本年二月より松山市坂の上の雲ミュージアムで開催される企画展「ポーツマス日露講和会議」に帝国ホテル二階に展示していただきました「ポーツマス条約調印の机」を貸出したしました。

今後とも「明治」をキーワードに展示やイベントなど様々な活動を協力して行い、広く「明治」を伝えるよう努力してまいります。

こんにちは HELLO

音声ガイド「マドンナ」



聞いてナットク!!



右手に持ったペンで左手のマップにタッチするだけ！

貸出場所：正門・入村券売場、SL東京駅売店
貸出料金：1日500円（※貸出時にお名前とご連絡先をご記入いただきます）
貸出時間：9：30～17：00（11月から2月は9：30～16：00）
※本数に限りがあるため、お貸しできない場合がございます。
※精密機器のため、お取扱いには十分にご注意ください。

使い方は「You Tube」でも紹介されています。
http://www.youtube.com/watch?v=svJU3t_-8TM

YAHOO! Google でもOK!

番号	資料名	備考	所蔵
2-25	乃木希典書簡 桂弥一宛 ②	明治38年	下関市立長府博物館
2-26	福島安正筆乃木第三軍司令官宛葉書 ⑤		下関市立長府博物館
2-27	遺言 桂弥一宛 ④	明治45年	下関市立長府博物館
2-28	乃木希典幼少時唐櫃山親戦の図 ④		下関市立長府博物館
2-29	乃木希典の陸軍歩兵少佐時代の肖像 ⑤		下関市立長府博物館
2-30	乃木家重要書類箱 ⑤		下関市立長府博物館
2-31	乃木父子の夕食之覧 ①③	桂弥一書	下関市立長府博物館
2-32	乃木家定紋 ②		下関市立長府博物館
2-33	乃木希典遺品分配目録 ②		下関市立長府博物館
2-34	乃木希典遺品 箸と箸箱 ①③		下関市立長府博物館
2-35	乃木希典遺品 椀 ④		下関市立長府博物館
2-36	乃木希典遺品 角皿 ②		下関市立長府博物館
2-37	乃木希典遺品 煎茶茶碗 ⑤		下関市立長府博物館
2-38	乃木希典遺品 時絵椀 ②		下関市立長府博物館
2-39	乃木希典遺品 茶碗 ④		下関市立長府博物館
2-40	乃木希典遺品 徳利 ④		下関市立長府博物館
2-41	婦人看護服 ④	静子夫人着用	下関市立長府博物館
2-42	乃木希典書簡 真鍋中将宛 ①		長府 乃木神社
2-43	写真 少佐時代の乃木希典 ①		長府 乃木神社
2-44	乃木希典書 昨夜風来震海隅之詩		博物館明治村
2-45	写真 ポートレート ①		下関市立長府博物館
2-46	写真 将軍の上半身写真 ①		下関市立長府博物館
2-47	写真 最後のポートレート ①		下関市立長府博物館
2-48	写真 自刃の朝の乃木夫妻 ①		下関市立長府博物館
2-49	写真 最後の全身立像 ①		下関市立長府博物館
3-01	乃木希典遺品 洗面用品	片瀬遊泳場で使用	下関市立長府博物館
3-02	乃木希典遺品 蚊取線香立		学習院アーカイブス
3-03	写真 学習院片瀬海水浴場 学生の遊泳監視		下関市立長府博物館
3-04	写真 学習院片瀬海水浴場での乃木院長 ①		下関市立長府博物館

番号	資料名	備考	所蔵
3-05	写真 学習院運動会職員提灯競争 ①	明治41年	学習院大学史料館
3-06	写真 秋季運動会立目 ①	明治40年	学習院大学史料館
3-07	乃木希典遺品 食器		学習院アーカイブス
3-08	乃木希典遺品 基石		学習院アーカイブス
3-09	乃木希典書簡 春山克郎宛（榎櫃の石の写真付き）		学習院アーカイブス
3-10	乃木希典書簡 石井国次宛		学習院アーカイブス
3-11	学習院 門扉装飾		学習院アーカイブス
3-12	学習院 院章部分		学習院アーカイブス
3-13	乃木希典遺品 単眼鏡 ①③	Carl Zeiss	下関市立長府博物館
3-14	乃木式義手		陸上自衛隊衛生学校彰古館
3-15	写真 ウィーンでの乃木希典 ①	明治44年	下関市立長府博物館
3-16	写真 加茂丸船上の乃木・東郷両大将 ①	明治44年	長府 乃木神社
3-17	帯 乃木希典・東郷平八郎寄書	明治44年	博物館明治村
3-18	乃木希典・東郷平八郎手蹟合装 ④	明治44年	下関市立長府博物館
3-19	乃木希典・東郷平八郎手蹟合装 ⑤	明治44年	下関市立長府博物館
3-20	乃木希典書 学習院学則	明治43年	学習院アーカイブス
3-21	御紋付七宝花瓶一对		学習院アーカイブス
3-22	教への親 乃木大将 ①	昭和13年	学習院大学史料館
3-23	金季花紋銀製花瓶	明治44年9月	学習院アーカイブス
3-24	菊御紋章桐模様模髯銀鉢	明治42年7月下賜	学習院アーカイブス
3-25	写真 乃木ポートレート ①		下関市立長府博物館
3-26	書簡集		学習院アーカイブス
3-27	乃木希典書 学習院学則		学習院アーカイブス
3-28	院長日記		学習院アーカイブス
3-29	乃木大将手蹟 ①	大正5年	学習院アーカイブス
3-30	乃木院長遺品展目録 ①	昭和37年	学習院大学史料館
3-31	赤坂乃木邸図面（複写） ①		長府 乃木神社

※資料名の●数字は展示期間。
①=1月21日～2月19日 ②=2月21日～3月25日 ③=3月26日～4月22日 ④=4月23日～5月27日 ⑤=5月28日～6月24日
番号のないものは全期間展示します。（予告なく展示期間が変更になる場合があります。）



明治村花暦

	3月			4月			5月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アセビ									
コバノミツバツツジ									
ソメイヨシノ									
ショウジョウバカマ									
カタクリ									
ボケ									
ヤマザクラ									
ツバキ									
コブシ									
モクレン									
レンギョウ									
ユキヤナギ									
ヤエザクラ									
ドウダンツツジ									
モチツツジ									
サツキツツジ									
アメリカハナミズキ									
ヒラドツツジ									
フジ									
ヒトツバタゴ									
ハナショウブ									

ゴールデンウィークの明治村

●延長開村

開村時間 9：00～18：00
4月28日(土)・29日(祝)・30日(休)
5月3日(祝)・4日(祝)・5日(祝)

津軽三味線コンサート

■開催日：4月29日(祝)・30日(休)
■会 場：聖ザビエル天主堂
■時 間：13：00～、15：00～（各回約30分）
■出 演：山口晃司

津軽三味線大会において数々の賞を受賞し、日本国内に留まらず、世界中で幅広く活躍している津軽三味線界の若き獅子、山口晃司の力強い演奏で魅了します！

緑風茶席

■開催日：4月28日(土)～30日(休)・5月3日(祝)～6日(日)
■会 場：日本庭園
■時 間：10：30～ ※菓子が無くなり次第終了
春の清々しい空気を感じられる日本庭園に野点席を設けました。気軽に楽しめるお茶会です。 一服600円（特製和菓子付）※雨天中止

明治の文豪を学ぼう！

■開催日：5月3日(祝)～5日(祝)
■集合場所：森鷗外・夏目漱石住宅
■時 間：11：00～12：00
夏目漱石など明治の文豪をテーマにした子供向けのガイドツアーです。

ミニSLに乗ろう！

■開催日：5月3日(祝)～6日(日)
■会 場：食道楽のカフェ前芝生広場
■時 間：10：00～16：00
食道楽のカフェ横芝生広場にミニSLが登場！
※時間帯によりバッテリー式ミニトレインが運行します。 ※雨天中止



もっとなつて
いたください。

明治村茶会

事前予約制・有料

明治村の建築物を利用した開かれたお茶会です。
どなたでもお気軽にお申込いただけます。

■開催日：4月20日(金)、21日(土)
■参加費：15,000円(入材料込)

電話にてお申込みください。(締切4月10日)
電話受付 9：30～17：00

西園寺公望別邸「坐漁荘」・亦楽庵席
大阪 湯木美術館

湯木美術館は、「日本料理を文化芸術の域にまで高め、その魅力を日本のみならず世界に紹介した」として料理界で初めて文化功労賞を受賞した湯木貞一氏のコレクションを基に昭和62年に開館した美術館です。自らの鑑識眼に適った優品の数々を集めたそのコレクションは、茶人ばかりではなく、多くの人々に愛でられています。
元勲・西園寺公望の別邸で、湯木貞一氏に選び抜かれたお道具の数々をご堪能ください。

御所丸茶碗
銘 由貴
福山藤井家伝来
湯木美術館所蔵

学習院長官舎席 **新潟 北方文化博物館**

北方文化博物館は、明治15～22年の8年の歳月をかけて、当時の職人の技を駆使して建てられた越後の豪農伊藤家の屋敷・庭園、そして書・画・古美術品などを基に、昭和21年に設立された博物館です。明治村茶会設立に尽力し、国宝監査官で墨蹟研究の第一人者であった故田山方南氏との所縁も深く、今回初めて明治村茶会に懸念願いました。
修理工事竣工なって間もない学習院長官舎で、越後の豪農のおもてなしで心温まるひとときをお過ごし下さい。

日本庭園・野点席

庄司 達〈現代美術〉、庄司信洲〈華道家〉、庄司宗文〈茶道家〉

今年の日本庭園・野点席は、これまでとは全く異なった場を皆様楽しんでいただきます。
名古屋を中心として全国的にそれぞれの分野 ー現代美術・華道・茶道ー で活躍されている三人のご兄弟が初めてコラボレーションし、お席を持ていただきました。入鹿池を見下ろす風光明媚な日本庭園と現代アートが織り成す新しい空間をどうぞお楽しみ下さい。

日本庭園 茶席イメージ図
デザイン：庄司 達

春の明治村

平成24年3月3日(土)～6月24日(日)

開村記念イベント

■開催日：3月18日(日)
開村記念日限定 特別入村券を販売 **1,600円 限定1,000枚**

きもので楽しむ明治村

■開催期間：3月17日(土)～4月8日(日)
※期間中きものでご来村の方は入村料半額
●きもの体験
■開催日：3月31日(土)・4月1日(日)・7日(土)・8日(日)
(協力／民族衣裳文化普及協会)
■時 間：10：00～15：00 体験料1,000円(90分) ※荒天中止
春の明治村を、きもの姿で歩きませんか？ 講師が着付けしてくれますので、お気軽にお越し下さい。
●呉服座きものショー
■開催日：4月1日(日)
■時 間：13：30～(約1時間)
■会 場：呉服座
振袖や打掛などの現代のきものや十二単などの伝統衣裳の着付けショー。

遙かなるドイツ音楽の調べ

■開催日：3月18日(日)・6月2日(土)
■時 間：13:00～、14:30～（各回約30分）
■会 場：聖ザビエル天主堂

乃木希典と森鷗外が出会った地・ドイツにゆかりのある歌をご披露します。



チョコベジ体験

■開催日：4月1日(日) ■協 力：株式会社 明治
■会 場：三重県庁舎 彩の間
野菜にチョコレートをつけて食べる「チョコベジ」の試食会です。

明治村たてもの講座

■開催日：3月17日(土)・4月14日(土)・5月19日(土)・6月16日(土)
■時 間：11：00～(約1時間)
明治村の建築担当・石川新太郎が、修理工事の終了した学習院長官舎を中心に明治村の建物のみどころをわかりやすく説明します。

明治の鉄道遺産めぐり 【事前予約制】

■開催日：3月18日(日)・4月22日(日)・5月20日(日)・6月17日(日)
■時 間：13：00～(約1時間) ■定 員：各日20名
明治村にある数多くの明治期の鉄道遺産を巡るガイドツアーです。中には、これまで紹介されていなかった「お宝」資料もご紹介します。

明治村植物探訪 【事前予約制】

■開催日：3月20日(祝)・31日(土)、4月7日(土)
■時 間：各日とも13：00～14：30 (約1時間30分)
※当日の状況で終了時間は前後する場合があります。
■参加費：無料(別途入材料必要) ■定 員：各日20名
■申込方法：各開催日の14日前から3日前までに電話またはホームページよりお申込ください。

明治村 子規はいく～春～

■開催日：3月3日(土)～5月31日(木)
正岡子規の俳句と子規ゆかりの人々を村内各所に訪ねながら、明治村を楽しく散策していただく健康イベント。タイトルは「子規」と「四季」、「俳句」と「ハイキング」をそれぞれ掛けています。春の明治村で、あなたも一句詠んでみませんか？

● 特別展開連イベント ●

学習院長 官舎内部公開

■開催期間：6月24日(日)まで ■時 間：11：40～(約15分)
学習院長官舎の内部を明治村ボランティアスタッフとともにご見学いただきます。

明治探険隊Ⅲ
スフィンクスコード
王の秘宝

実体験型ロールプレイゲーム
今回のテーマは、「歴史上の偉大なる5人の王」。

コース名	対象・難易度	難易度	価 格	販売時期
CODE0 (ZERO)	小学生	子供向け	250円	開催期間中
CODEⅠ	初挑戦者	初級・導入	400円	開催期間中
CODEⅡ	探険隊経験者	中 級	500円	開催期間中
CODEⅢ	探険隊ファン向け	上 級	500円	開催期間中
CODEⅣ	他コースクリア者	超上級	1,000円	5月12日(土)～
CODEⅤ	CODEⅣクリア者	最難関	1,000円	6月2日(土)～

ほかにも小学校団体様用のKIDS (250円 期間は通年 要予約) コースがあります。

お問い合わせ・申込先

<http://www.meijimura.com/> または 0568-67-0314

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

期 間

平成24年

3月3日(土)

と

7月29日(日)



写真4 二階引戸の落款



写真5 三階板戸雀の絵の落款

裏の廊下側の面には五本の竹が描かれています(写真3)。竹の根元は描かれず、下部四分の一を覆うように金銀の砂子が施されています。この画面では砂子によって、竹が霧の中から浮かび上がるかのような、幻想的な印象すら感じられます。一本だけが手前に配置され、それ以外の四本はまっすぐに、画面のさらに上へと伸びています。「稗」と呼ばれる幹のような部分の節ごとに逆三角形を描きこむことで、その丸みや立体感を表しています。そして画面上部にはたくさん葉が描かれていたことがうつつら残る筆跡からわかりますが、現在葉の形を見ることができるのは一部のみにです。画面の下部が幻想的な印象なのに対して、上部は茂った竹の葉がたくさん描かれることで生長する竹の力強さを感じることが出来ます。

それぞれのモチーフについて調べてみると、齋藤隆三著『畫題辭典』※1では、竹は古くから描かれてきた植物で、まっすぐで趣きのある姿が好まれて文人画家に多く描かれたものであることがわかります。金井紫雲編集による『復

刻版東洋画題辭覧』※2では、竹林は日本独特の景観を生み出すので、竹を描かない画家は恐らくいないだろうとされ、また雀は花鳥画の中で最も早く描かれたものであるとされています。この二つのモチーフは古来より習慣的に一緒に描かれてきたものであり、雀が竹林に群棲するという自然描写でありながら、色彩の調和といった美的感覚からも好んで描かれてきたことを指摘しています。

三十四年に「杏齋」という名の作家によって制作されたことがわかります。では、この作品を描いた作家「杏齋」とはどんな人物なのでしょう。服部徳次郎編輯『愛知県画家名鑑』※3には織田杏齋という作家が紹介されています。名は啓、字は子道です。弘化二(一八四五)年生まれで、絵師である父・共樵に画を学んだ後、父の教え子でもある張晋齋から教えを受けました。大正十三(一九二四)年に刊行された『第五編愛知縣畫家傳』※4には、明治十七年の「第二回繪画共進会」において畫事功勞賞と褒状を得たとされています。東松家と織田杏齋との関係性は今後の考察が必要になりますが、東松家は多くの美術工芸品を有しており、そのコレクション

さい。

参考文献

- ※1 齋藤隆三『畫題辭典』、株式会社国書刊行会、一九七七年
- ※2 金井紫雲編『復刻版東洋画題辭覧』、株式会社国書刊行会、一九九七年
- ※3 服部徳次郎編著『愛知県画家名鑑』、愛知画家顕彰会、一九九七年
- ※4 手島益雄『第五編愛知縣畫家傳』、東京堂書店、一九二四年



竹の絵拡大



写真3 三階廊下側板戸



写真2 三階部屋側板戸



雀の絵拡大

板戸の絵に注目

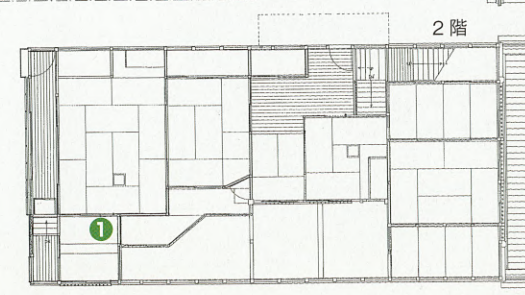
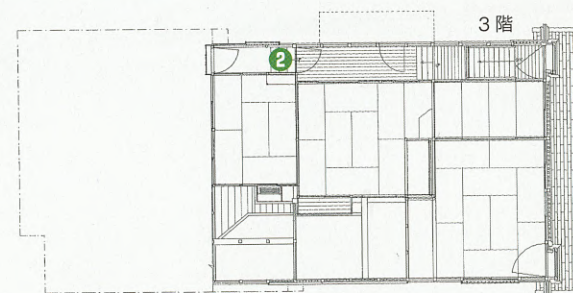
●東松家住宅 2階・3階(2丁目18番地)



二丁目レンガ通りの中ほどに、重要文化財に指定されている「東松家住宅」が建っています。名古屋の堀川沿いに建てられていたこの建物は、江戸時代から明治の初め頃にかけて油問屋を営み、その後個人銀行を開いたとされています。当初は平屋建一部二階付の建物でしたが、明治三十四年までに増築をし、現在のような三階建てになったと思われま。二階には茶室が設けられ、三階はスキップフロアのように三つの段が作られています。この増築さ

れた二階の二畳部屋の引戸には片面に、三階の最も高いところに位置する部屋へ続く階段前の板戸には両面に、絵が描かれているのをご存知でしょうか。二階の二畳部屋の引戸には竹と雀が併せて描いてあります(写真1、平面図①)。画面の上下三分の一ずつに金銀の砂子が施され、上部には雀が三羽描かれて

います。それぞれ異なるポーズで描かれており、その空間や動きまでも画面に描きこんでいます。このように雀は現在でも形を把握することが出来るのですが、竹はうつつらとその跡を見るに留まります。三階の板戸には両面に絵が描かれていますが、普段は部屋側の面のみを公開しています。この面には二十羽を超える雀の群れが描かれています(写真2、平面図②)。剥落が少ないため、克明な描き方がわかります。全体をうす塗りで描き、頭から背の部分や首から腹部にかけては細い線で、翼や尾の部分は羽の一本一本をやや太い筆跡で、それぞれの羽毛の質感を表現しています。対して硬い口ばしには線で輪郭を取り、柔らかな羽毛との描き方を変えています。目の縁や口ばし周りなどの表現は、対象をよく観察して描いていることがわかります。



東松家平面図